

## 第293回 昭和の森自然観察会

### 初夏の里山3Hコース「土気城跡方面を尋ねる」

武田宏子（千葉市）

日 時：2016年5月8日（日） 13～15時 天気：晴れ

参加者：30名（大人29名・子ども1名）、指導員：11名

担当指導員：川北紀子・小林義一・武田宏子

人気の里山3時間コースです。今回は、昭和の森3つの分水界の一つ、鹿島川の源流方面の里山約6キロを巡りました。新緑の光と空気を浴びながら古の人々に思いをはせ、風景を楽しみました。先ずは、昭和の森・太陽の広場に集められた雨水や浸み出し水の行方探検。水は住宅内の雨水枠から調整池へ運ばれます。鹿島川の最上流部分は、現在はあすみが丘東の住宅地となっていますが、ここは、縄文時代の住居から始まって近代までの遺跡が発掘されているところです。黒ハギ公園・房谷公園・宝ヶ台公園には、緑地や残地森林として貴重な自然が残されています。そこで、樹木ウォッチング！！「スダジイ」はどんぐりの木。雄花をたくさんつけ、むせかえるような匂い。遠くから見て明るいブロッコリーのように見える木はスダジイであることが分かりました。コナラの赤ちゃんとどんぐり発見。咲き終わった雄花や昨年落としたどんぐりも。ケヤキやサクラ、タブノキ、モミジ、クスノキ、ハゼノキなどなど。参加者が「キンラン」を見つけてみんなで鑑賞。

本寿寺は土気酒井氏が浜野本行寺の日泰上人を招いて建立。幹回り7.8mもの巨大スダジイにびっくり。五百有余年もの間、数々の歴史をみつめ、生き抜いてきたのでしょう。そのパワーをいただきました。かつての土気城下の個人宅では、半分に割って門柱としてたてたスダジイが、根づいて再び命が蘇えり、左右対称にアーチを作っていました。裏側の板状に見えるのは、立てた時の木部。生長点が樹皮であることが分かります。この地区にはたくさんの道祖神や道標がありました。土気往還として賑わった往時が偲ばれます。土気城址の空堀、土墨跡は遠目からはこんもりした森に見えます。ここでは、蒟蒻の花に出会いました。初めて見る方がほとんどで、その不思議な花をカメラにパチリ。カミヤツデ、オドリコソウ、ケンポナシ、コウヨウザン、ノシランなどの珍しい植物を観察しました。

酒井氏土気城は1488年から。100mの台地上にあり、難攻不落の名城として知られていきましたが、1590年豊臣秀吉の房総攻めの際に破れ、廃城。5代102年間。その起源とされる貴船神社にお参りしました。

ゴールは、大きなカツラの木の下。緑の空気をいっぱいに吸い込んで反省会をしました。参加の動機は、歴史・自然・ウォーキングと様々でしたが、いろいろな発見があって楽しかった。空気もよく最高。と満足されたようでした。



スダジイの花盛り



貴船大明